

　高知大学から多くの留学生を迎えて行う国際交流地区民運動会も今年で３回目となりました。今年は学生の参加も倍増し、およそ３５０名の来場者でにぎわいました。

毎年好評だったワールド屋台は、屋台の人たちが運動会に参加できにくいということで、前日に世界の料理教室として子どもたちや地域の方たちも一緒に参加しての料理教室として行いました。留学生からはマレーシアや中国・モンゴルの料理を習い、七里地区の女性からは、巻きずしや田舎ずしを教えていただき、すごく楽しく交流できました。

国際色豊かな料理を並べての交流会では、みんなの笑顔が、とても印象的でした。

　今年は、例年より３週間遅らせて、５月の１６・１７日の開催となりましたが、おかげで、新年度に入学した1年生や留学生も参加できたということです。

　運動会の競技の中で、特に印象に残ったのは、「４００歳リレー」と「四万十ツアー」でした。「４００歳リレー」は、１人５０ｍを、チームで合わせて４００歳以上になるメンバーで走るもので、地域のおじいちゃんやおばあちゃんが選手で走って大活躍。いくら若者が早くても、３倍も４倍の速さでは走れるわけもなく、１位となっていました。

「四万十ツアー」は、このイベントを中心となって企画してくれている高知大学の国際茶屋というサークルの皆さんが、松葉川地区で開催する地区民運動会らしく、地域性を生かした競技を取り入れたいと、若く柔軟な発想で考えてくれた競技で、四万十の沈下橋をイメージした「平均台わたり」や、温泉祭りで行われている「にら飛ばし」、しょうがの収穫を模しての「ショウガアメ食い」などを取り入れた、この地域ならではの障害物競争でした。

　昼食は、四万十町内の人気店の皆さんや、商工会青年部に出店いただきました。今度は、ぜひお店のほうにも行ってみたいと思っています。

　運動会の運営のために、何度も何度も高知市から七里地区に来ていただいた高知大学国際茶屋の皆さん、田植え等で忙しい中、参加いただいた地域の皆様、昼食をご用意いただいた町内飲食店の皆さん、そして前日からの準備や片付け・おむすびの製作販売など様々な面で関わっていただいたＰＴＡや地域のみなさん、地域支援員の町職員の皆様など、本当に多くの皆様のご尽力・ご協力により、子どもたちが地域の中で様々な経験をつみ、思い出を増やしながら健やかに成長していると思います。

　子どもたちも地域の一員です。今後もこのような地域の活動がますます活発になり、次代を担う子どもたちが地域の中で、社会の宝として育っていくことを願っています。

　また、当日は、ネパール地震で被災された方たちのために義援金ブースも設けられました。七里小の子どもたちの中にも、何とか協力したいという子どもたちがいて、ファンルームという色とりどりの小さな輪ゴムで作った腕輪のような飾りを製作販売し、その売り上げを義援金にしました。

　このような事を、自分たちで考え、行動に移してくれることを、とてもうれしく思ったことです。

　子どもたちの思いにご賛同いただき、ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。

　5/16（土）の世界の料理教室の様子　　子どもたちも外国人留学生と一緒に巻きずしにも挑戦

　男子留学生も祖国の料理で国際交流

左から、日本の「田舎ずし」にマレーシアの焼きめし「ナシゴレン」モンゴルの揚げギョーザ「ショーホール」中国の茄子炒め「ホンシャオチェズ」どの料理も大好評でした。